

7月18日に新潟地方気象台から発表された1か月予報(7月19日～8月18日)では、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並みか少なく、日照時間は多い見込みです。

稲作技術情報

『状況に応じた穂肥対応』

～高温条件下での後期栄養の確保に備えましょう～

1. 高温に備えた穂肥の検討で稲体の健全化

6月中旬から高温・多日照で推移し、今後も高温が予想されています。当管内でも葉色が低下している圃場が多数見られます。出穂期以降、葉色が低下して後期栄養不足となると白未熟粒の発生に繋がりますので、葉色低下が心配される場合は、後期栄養確保の3回目穂肥を施用しましょう。

表1：高温が予想される場合の3回目時期穂肥目安

3回目時期の使用肥料		判断時期と葉色の目安	施肥時期と施肥量
化学肥料を施用		出穂期3日前 葉色 (SPAD値) 31以下	出穂期3日前 窒素成分1kg/10a上限
有機50%肥料を施用		出穂期6日前 葉色 (SPAD値) 33以下	出穂期3日前 窒素成分1kg/10a目安
有機100%肥料を施用	標準的な圃場	出穂期6日前 葉色 (SPAD値) 33以下	出穂期6～3日前 窒素成分1kg/10a目安
	低地力の圃場	幼穂形成期 葉色 (SPAD値) 31未満	出穂期6～3日前 窒素成分2kg/10a目安

※出穂後の施用は玄米蛋白含有量が上昇するため注意しましょう。

2. 斑点米の防止強化！

新潟県より「斑点米カメムシ類注意報」発令中！

当管内でも斑点米カメムシ類が多く確認されており、今後も気温が高く、活動が活発になると予想されます。斑点米の発生は品質低下だけでなく、格落ちすることで生産者の収入にも影響を与えます。畦畔除草と薬剤防除による斑点米カメムシ防除に取り組みましょう。

表2：斑点米カメムシ類における防除と薬剤

畦畔除草 (耕種的防除)	斑点米カメムシ類はイネ科雑草を好みます。雑草が結実するとカメムシの増殖地になる恐れがあるため、結実させる前の除草作業を心掛けましょう。
薬剤防除 (化学的防除)	近年増加しているカメムシは飛翔するため、圃場全体に薬剤散布を行いましょう。また、剤形により防除適期が異なり、また適期も短いため注意しましょう。

薬剤名		散布量 (10a当たり)	散布適期
キラップ	粒剤	3 kg	出穂期 10 日前～出穂期
	粉剤 D L	3 ～ 4 kg	出穂期 3 日後 (穂揃い期) ～ 7 日後
	フロアブル	1,000～2,000 倍液 60～200 ℓ	
エクシード	粉剤 DL	3 kg	出穂期 3 日後 (穂揃い期) ～ 7 日後
	フロアブル	2,000 倍液 60 ～ 150 ℓ	

※キラップフロアブルの希釈倍率は、1,000 倍を推奨します。

※農薬を使用する際は、必ずラベルを確認し、登録内容を厳守してください。

3. 出穂期後の水管理について

図1：出穂期後の水管理イメージ

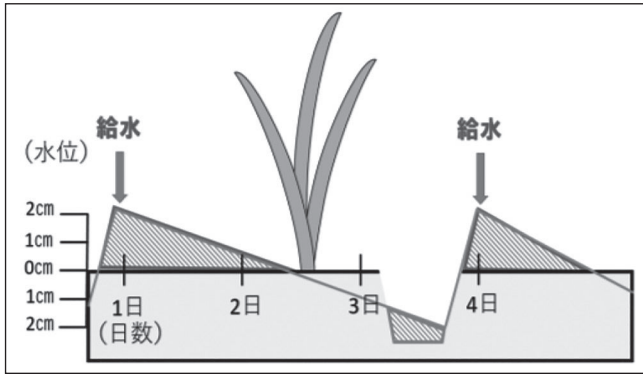
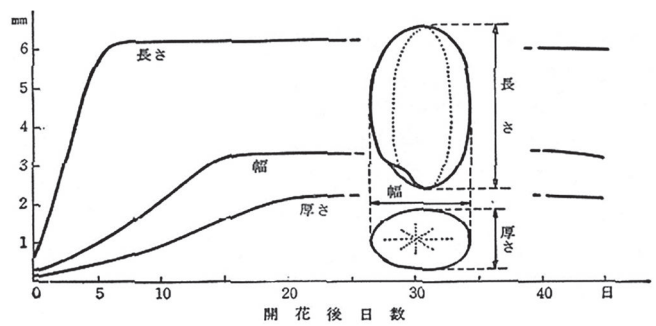


図2：玄米の外形の発達（農文協より）



玄米は「長さ」→「幅」→「厚さ」の順に成長します。

出穂後25日頃までは肥大するため、水が必要となります。早期落水は、玄米の厚みが十分でない「未熟粒（ヤセ米）」等に繋がります。

水利条件や圃場の排水性などにあわせて、最終かん水日を設定し、根の健全化と登熟に必要な水分の補給に努めましょう。

※異常高温やフェーンの際は、可能な限り入水し、稲体への負担軽減に努めましょう！

予測情報に注意し、フェーン等による高温・乾燥ストレスの発生が予想されるときは、発生前日よりかん水し、フェーン通過後は圃場内の水が温まっているため、長期湛水は避けて水の更新を行い、通常の水管理に戻します。（予め用水利用計画を確認しておきましょう。）

～ 水は大切な資源です ～

用水が地域全体に行き渡るように圃場全体に水が行き渡ったら速やかに水口を止め、みんなが協力して、限りある資源を有効利用しましょう！

4. 早めの刈り取り準備で品質確保

出穂後の積算温度で刈り取り適期目安が把握できます。

近年、高温登熟年が増え、刈り取り開始時期が早く、適期幅も短くなっています。本年も高温登熟年と予想されており、早い方は8月末の刈り取り開始も見込まれます。

刈り取り作業期間が長い方は積算温度800℃を、一般の方でも900℃を目安に刈り取りができる準備をしておきましょう。刈り取りがいつになっても対応できます。刈り取り作業のピークが950～1,000℃となるように早めの計画を立てましょう！

表3：刈り取り適期の積算温度目安

品 種	平年	高温年
早生（こしいぶき、五百万石 等）	975℃	925℃
中生（コシヒカリ、こがねもち 等）	1,000℃	950℃
晩生（新之助、あきだわら 等）	1,050～1,100℃	1,000～1,050℃

表4：昨年（令和6年）の収穫適期

出穂期	950℃	1,100℃
8月1日	9月4日	9月10日
8月5日	9月8日	9月13日
8月8日	9月10日	9月15日

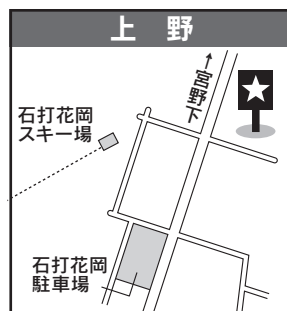
昨年は7月中旬頃から高温で推移したため、高温登熟年となり、収穫適期が早まりました。

本年も出穂期が早まる予想となっているため、早めの準備に取り掛かり、刈り遅れによる品質低下を防ぎましょう！！

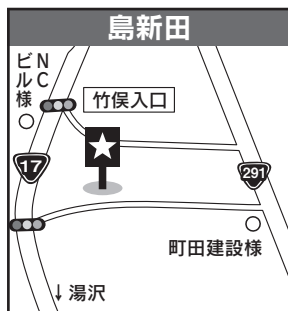
令和7年度 積算温度計 設置場所

《塩沢・湯沢版》

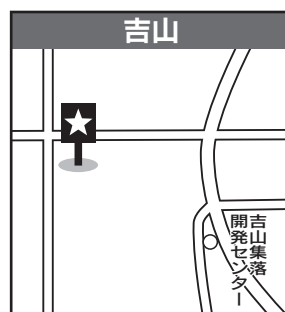
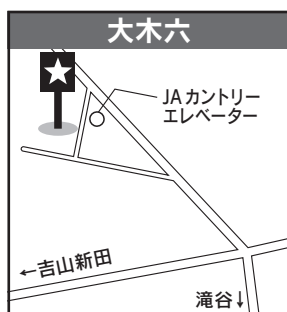
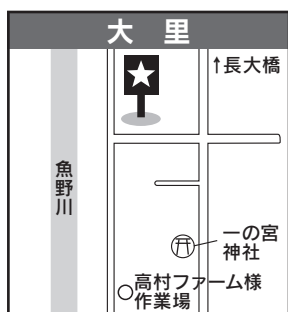
石 打 地 区



塩 沢 地 区



中之島地区



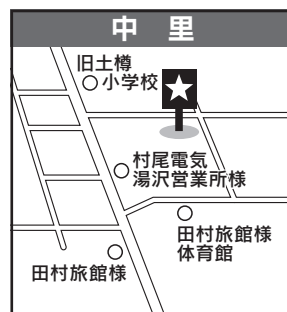
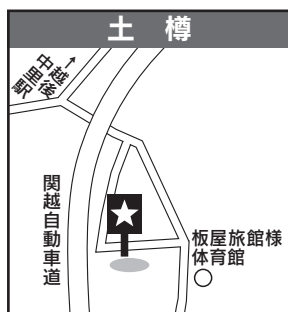
上 田 地 区



積算温度と、
糶の黄化率を確認し
適期刈取りに
努めましょう！



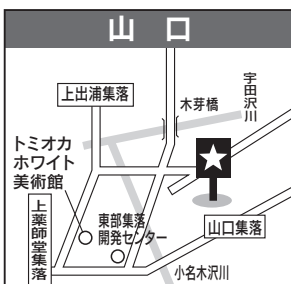
湯 沢 地 区



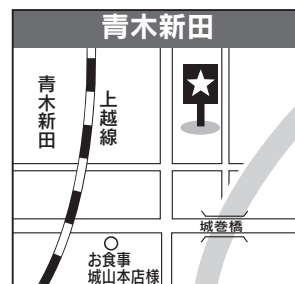
令和7年度 積算温度計 設置場所

《六日町・大和版》

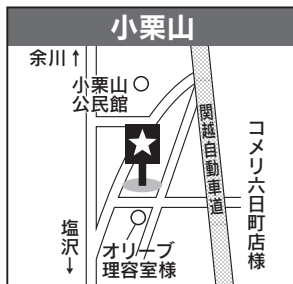
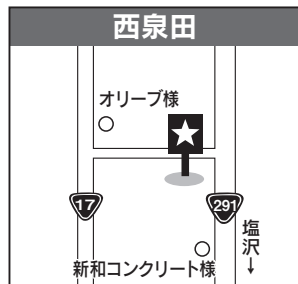
城内地区



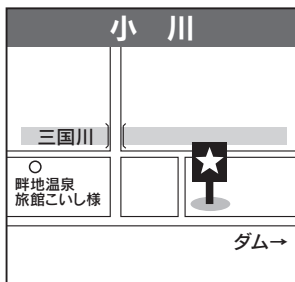
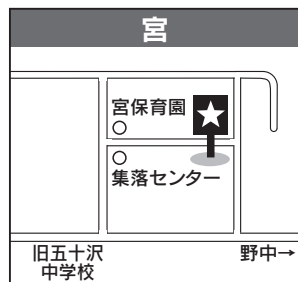
大巻地区



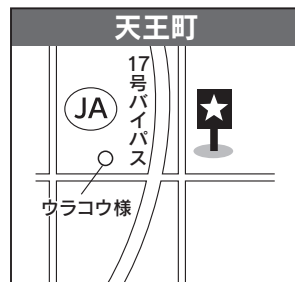
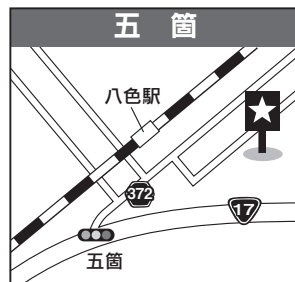
六日町地区



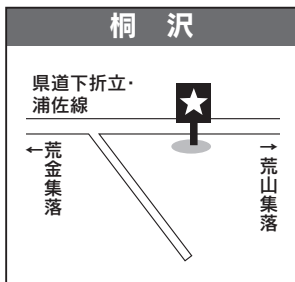
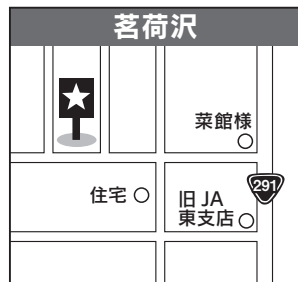
五十沢地区



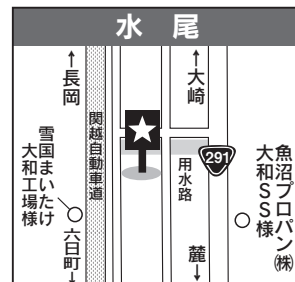
浦佐地区



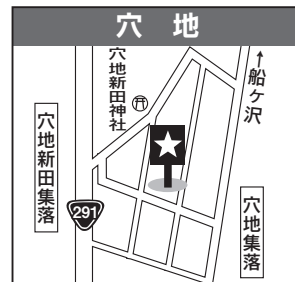
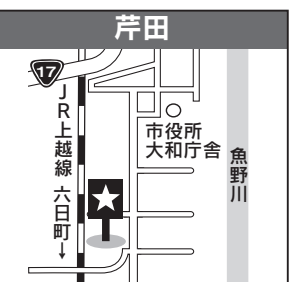
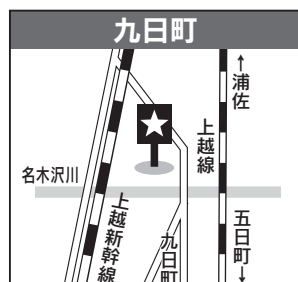
東地区



大崎地区



藪神地区



積算温度と、
粃の黄化率を確認し
適期刈取りに
努めましょう！

☆ハクサイ（年内収穫）



8月中に播種し、9月中に定植を行いましょう。ハクサイの発芽適温は**18～22℃**で冷涼な気候が適します。

播種や定植時期が遅いと結球しない（葉が巻かない）ことがあるので、収穫時期に適した品種選定と作型設定をしましょう。

1. 主な品種と特性

品種	特徴	収穫日数(播種から)	球重
耐病六十日	各種病害に強く、生育旺盛で作りやすい極早生種。外葉がコンパクトで、密植栽培が可能。根張りが強く、栽培適応幅が広い。	60～65日	2.3kg
豊秋60日	夏蒔き・秋収穫に適している。黄芯系早生種。		2.5kg
CR千秋65	根こぶ病抵抗性品種。水はけの悪い畑で発生する土壌障害や連作障害によく耐え、作りやすい早生種。		
黄ごころ75白菜	石灰欠乏症やゴマ症などの生理障害の発生が少なく、作りやすい黄芯中生種。	70～80日	4.0kg
豊秋85日	遅どりや貯蔵用に適している。晩生大球種。	80～90日	

※J A資材店舗在庫切れの場合は、取り寄せとなる場合もございます。ご了承ください。



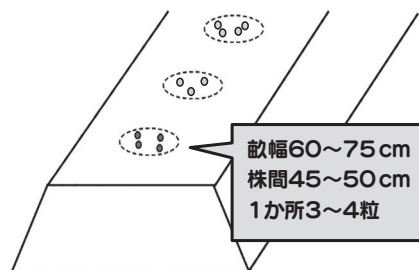
品種名にCRと入っているものは根こぶ病抵抗性品種のため、ネビジン粉剤等の使用量を控えることができます。

2. 播種と育苗

栽培方法には、種を畑に直接まく「直播栽培」と苗床を作ってから植える「移植栽培」の2つの方法があります。直播栽培は移植栽培に比べ、広い根群を確保でき高品質を狙うことができます。

【直播栽培の方法】

畝幅60～75cmでかまぼこ型の畝を作り、株間45～50cmの間隔で、1か所に3～4粒ずつ種をまき、種が見えない程度に覆土をします。さらに上から切りわらやもみ殻を被せておくと乾燥防止になり、発芽そろいも良く、発芽後の降雨による土の跳ね上がり防止にもなります。本葉4～5枚で間引いて1本立ちにします。



※移植栽培については、あぜみちNo.5（7ページ）のキャベツの育苗方法をご参照ください。

3. 定植

移植栽培の場合、播種後25～30日（本葉4～5枚程度）の若苗で定植しましょう。早生品種はやや密植、中晩生は大きくなるので畝幅・株間を大きくとりましょう。また、連作をすると根こぶ病や黄化病などの土壌病害が発生しやすくなるので注意しましょう。

栽植密度
の目安

- ・早生品種 畝間75cm×株間40cm
- ・中晩生品種 畝間80cm×株間50cm



4. 施肥例

根張りをよくするために完熟たい肥を十分に使用し、直播や定植1週間前までに肥料を混和しましょう。有機質の多い畑で栽培したハクサイは甘みが多く、日持ちもよくなります。

(kg/10 m²)

肥料名	元肥量	追肥量		備考
		1回目	2回目	
べこの堆肥	20～30kg			追肥時期 1回目：定植10日後(活着後) 2回目：定植1ヶ月後
粒状苦土炭カル	1.0kg			
MMB 燐加安	2.0kg	0.5kg	0.5kg	



5. 病虫害対策

●根こぶ病対策

元肥施用時に、薬剤を混和しましょう。また、高畝にすることで畑の排水性が良くなり、感染のリスクを減らすことができます。

(10 m²当たり)

薬剤	使用時期	使用量	使用回数	使用方法
ネビジン粉剤	は種又は定植前	200～300 g	1回	全面土壌混和
フロンサイド粉剤		300～400 g	1回	全面土壌混和

※フロンサイド粉剤は、黄化病の予防もできる。

●その他病虫害対策

(10 m²当たり)

病虫害	薬剤	使用時期	使用量	使用回数	使用方法
軟腐病	オリゼメート粒剤	播種時または定植時	60～90g	1回	全面土壌混和
ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤5	定植時	60g	1回	土壌表面散布
アブラムシ類、コナガ、アオムシ	ダントツ粒剤	定植時	2g(株あたり)	1回	植穴処理土壌混和
ハスモンヨトウ、ネキリムシ類、コオロギ	デナポン5%ベイト	収穫21日前まで	30～60g	3回	株元散布

6. 雑草対策

●除草剤の使用方法 (畑地1年生雑草に効果)

(10 m²当たり)

栽培方法	薬剤名	使用時期	使用量		使用回数	使用方法
			薬量	希釈水量		
直播栽培	トレファノサイド乳剤	播種直後	2～3mℓ	1ℓ	1回	全面土壌散布
	ラッソー乳剤	播種直後	1.5mℓ	1ℓ	1回	全面土壌散布
移植栽培	トレファノサイド粒剤2.5	定植前(植穴掘前)	40～60g	—	1回	全面土壌散布
	ゴーゴーサン細粒剤F	定植前(雑草発生前)	40～60g	—	1回	全面土壌散布

※トレファノサイドはツユクサ科・カヤツリグサ科・キク科・アブラナ科を除く。

※乾燥時は、粒剤の効果が落ちるので、湿った状態で散布する。

☆ダイコン



8月下旬～9月上旬に播種し、60日ぐらいで収穫できます。発芽適温は、20～25℃で冷涼な気候が適します。播種が遅いと肥大不足になり、早いとス入りが発生し品質を落とすので注意しましょう。

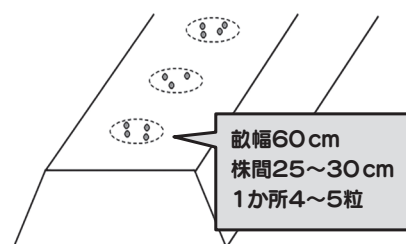
1. 主な品種と特性

品種	特徴
耐病総太り	作りやすく、特にス入りが遅く、甘い青首総太り大根。煮ても漬けても生でも美味しい。
耐病宮重	白肌と青首のコントラストが良く、耐病性も抜群の青首長太大根。煮物から生食と利用範囲は広い。総太りより長くなるので漬物用に適する。
耐病秋の郷	長期間畑における青首総太り大根。やわらかい肉質で、みずみずしい味わい。耐寒性もあり、ス入りも遅く収穫適期も長いのが特長。

※ J A 資材店舗在庫切れの場合は、取り寄せとなる場合もございます。ご了承ください。

2. 播種

畝幅60cmでかまぼこ型の畝を作り、株間25～30cmの間隔で、1か所に4～5粒ずつ種をまき、1cm程度を目安に程度に覆土をします。



3. 間引き

大根の根の長さは生育初期でおおよそ決まります。本葉5～6枚までの生育初期を適湿に管理し、順調に肥効を進めることで、生育が促進されることが期待できます。極端な乾燥や過湿に注意しましょう。

《間引き1回目》貝割葉が完全に開いたときに、混み合ったところを間引く。

《間引き2回目》本葉2～3枚の時、1ヶ所2本立ちにする。

《間引き3回目》本葉3～5枚の時、生育の良いものを残し1本立ちにする。

4. 施肥例

排水が良く十分な耕土（50cm以上）があり、排水性と保水性が両立できる土づくりが必要です。深耕するとともに、基肥は夏季では播種の5～7日前までに施用し十分に耕起し土になじませておきましょう。

(10㎡当たり)

肥料名	施肥量		追肥の目安
	基肥	追肥	
粒状苦土炭カル(M-I0)	1.2kg		生育の様子を見ながら3回目の間引き終了後に 
苦土重焼燐	0.3kg		
けい酸加里プレミア	0.3kg		
MMB 燐加安	1.4kg		
NK 化成		0.2kg×2回	

5. 害虫防除

特にダイコンは、キスジノミハムシの幼虫による根の食害(果皮のデコボコ傷)や成虫による葉や茎の食害が多いです。きれいな果皮にするためには、播種時からの薬剤防除がとても重要です!

(10㎡当たり)

薬剤名	使用時期	使用量	使用回数	使用方法
ダイアジノン粒剤5	播種時及び生育期 (但し、収穫21日前まで)	60g	2回以内	播種時: 作条土壌混和 作物生育中: 株元土壌混和

農薬を使用する際は、登録作物名・使用方法・使用回数・倍率等を確認し正しく使用しましょう。掲載している資材について、JA資材店舗在庫切れの場合は取り寄せとなります。ご了承ください。

★キャベツ(7月播種～8月定植～年内収穫)



7月中に播種したキャベツ苗の定植時期(播種後25～30日で定植)となります。8月末までに定植し、年内に収穫しましょう！

1. 施肥例

施肥例を参考に、定植1週間前までに畑の準備をしましょう。

〈10㎡あたり〉

肥料名	施肥量		備 考
	基肥	追肥	
べこの堆肥	20kg		
粒状苦土炭カル	1.8kg		
MMB燐加安	2.0kg		微量元素含む
苦土重焼燐	1.2kg		黒ボク土壌はリン酸分が不足しやすい
ケイ酸加里プレミア34	0.2kg		マグネシウムやホウ素を含む
NK化成		0.7kg×2回	<追肥の目安> 1回目：定植10日後、根が活着した頃 2回目：定植1ヶ月

2. 病害虫対策

〈10㎡あたり〉

病害虫名	薬剤名	使用時期	使用量	使用回数	使用方法
根こぶ病・菌核病	ネビジン粉剤	播種又は定植前	300g	2回以内	全面土壌混和
黒腐病	オリゼメート粒剤	定植時	60～90g	1回	全面土壌混和又は
ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤5	播種又は定植時	40～60g	2回以内	作条土壌混和
	ガードベイトA	生育初期	30g	5回以内	株元散布
アオムシ・コナガ	スタークル粒剤	定植時	2～3g/株	1回	植穴土壌混和
	ダントツ粒剤		2g/株		

3. 雑草対策

〈10㎡あたり〉

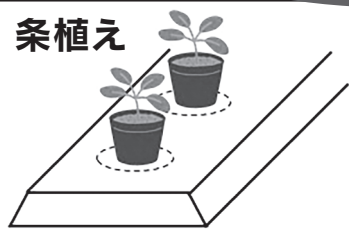
薬剤名	使用時期	使用量		使用回数	使用方法
		薬量	希釈水量		
ゴーゴーサン乳剤30	定植前 (雑草発生前)	2～4ml	0.7～1.5ℓ	1回	全面土壌 散布
クレマート乳剤			1.0～1.5ℓ		

4. 定植

根の活着の良否がその後の生育に大きな影響を及ぼすので、本葉4枚程度の若苗で晴天の午前中に定植しましょう。また、定植後の灌水の際に液肥を利用すると活着が進みます。

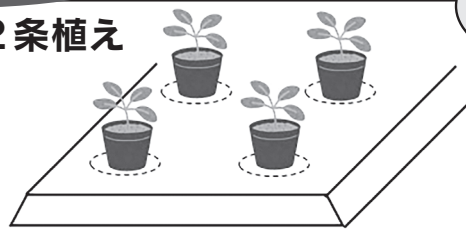
栽植密度の目安

1条植え



畝幅70cm × 株間40cm

2条植え



畝幅140cm × 株間40cm × 条間50cm

定植の際は、あらかじめ定植苗と植穴にたつぷり灌水しておきましょう。



農業を使用する際は、登録作物名・使用方法・使用回数・倍率等を確認し正しく使用しましょう。掲載している資材について、JA資材店舗在庫切れの場合は取り寄せとなります。ご了承ください。

～ JAからのお知らせ～

「JAみなみ魚沼米」栽培記録・GAPカード提出について

栽培記録カードの**第2回目**を提出期限までに提出をお願いします。

1. 提出書類：栽培記録カード第2回目

- ・全品種用：黄色用紙
- ・特別栽培米用：
5割減（3ページ目）
8割減・10割減（8ページ目）

2. 提出場所：JA各支店、各事業所窓口

3. 提出期限：令和7年8月15日(金)

アグリセンター資材店舗からのお知らせ

◎8月からの営業時間について

日頃よりアグリセンターをご利用いただき、誠にありがとうございます。

下記にて**8月から9月末日**までの各アグリセンターの営業時間をお知らせいたします。

アグリセンター	平 日	土・日・祝日
大 和	8:00～17:00 (3店舗共通)	8:30～17:00 (3店舗共通)
六 日 町		
し お ざ わ	8:30～15:00	休業
湯 沢		

※8月31日(日)は棚卸作業に伴い各店舗終日臨時休業とさせていただきます。

◎令和8年度用肥料農薬申込書について

肥料情勢が非常に不安定であることから、数量確保と安定供給のためにも、肥料・農薬の予約注文をお願いいたします。

◎土壌診断サービスについて

次年度の稲作作付に向けた水田の土壌診断サービスを実施します。（お一人様一点）
ご希望の方は、各アグリセンターに備え置いた土壌診断申込書に必要事項をご記入のうえ、土壌サンプルとあわせて10月末日までにご提出ください。

※ご不明な点がございましたら、各アグリセンターまでお問い合わせください。

アグリセンター大 和 ☎777-2431 アグリセンター六 日 町 ☎773-6121
アグリセンターしおざわ ☎775-7488 アグリセンター湯 沢 ☎785-5313

SNSによる営農情報の配信(LINE)

JAみなみ魚沼では、LINEによる営農情報の配信を行っております。LINEでは、最新の気象情報や水稲、西瓜、園芸品目などの栽培情報などを配信いたします。

メール配信ではなかった、画像を添えた配信などもありますので、多くの方からのご登録をお願いいたします。
(スマートフォンアプリ/LINEをインストールする必要があります。)

スマホのカメラを起動し、
左にあるQRにかざすと
読み込めるよ!



ご不明な点がございましたら、JA みなみ魚沼営農指導課までお問い合わせください。

◎アグリセンター大和 Tel777-3786 ◎アグリセンター六日町 Tel773-6121

◎しおざわ基幹センター Tel782-1171